

新奇クラゲ ファイロライザ (*Phyllorhiza punctata*) の確認

平成21年11月10日、黒崎漁業協同組合の組合長から見たこともないクラゲ(下の写真)が小型定置網にかかったとの連絡を受け、水産試験場の職員が現地へ赴いた。同漁協の組合長によれば、「50年漁をしているが初めて見るクラゲ」とのことであった。

本県沿岸域で普通にみられるミズクラゲ、アカクラゲやユウレイクラゲとは全く異なり、珍しい種類であったので、広島大学大学院生物圏科学海洋生態系評価論研究室に標本を送付し同定を依頼したところ、本種が *Phyllorhiza punctata* であることが明らかになった。

本種は、オーストラリア北部と東南アジア域に分布する熱帯性の種であるが、近年アメリカメキシコ湾に外来種として移入し、大発生して問題になったことがあるという。早速、水産試験場は県下の主な漁業協同組合の漁業者や瀬戸内海沿海の各県水産試験場等にも情報提供を呼びかけたが、これまでのところ発見情報は寄せられていない。

現時点でなぜ瀬戸内海の中央部で発見されたか明らかでないが、引き続き情報収集につとめることにしている。(資源班)



(表)



(裏)

岡山県倉敷市黒崎地先で採集されたファイロライザ パンクタータ

傘の径は約45cm、傘から透けて生殖腺がみえる



ファイロライザ パンクタータの外観

出典：Hawaii Biological Survey 2001 (Photo J. Grovhoug) より